

中小企業地域資源
活用促進法に基づく

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

愛知県一宮市
が応援するふるさと名物

◎ **尾州の毛織物等**
繊維関連製品応援宣言



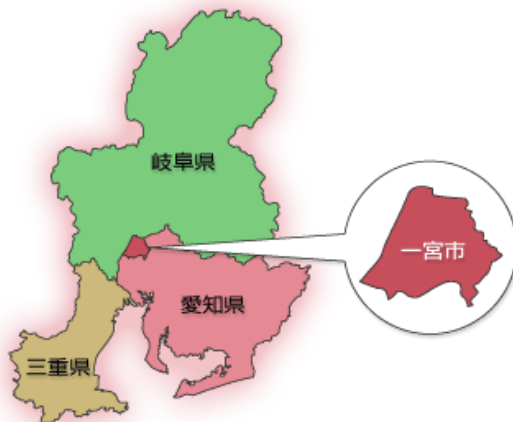


ふるさと名物
Furusato Meibutsu

平成28年2月29日

応援宣言

愛知県一宮市とは



一宮市マスコットキャラクター
「いちみん」

愛知県一宮市は、愛知県の北西部にあり名古屋市と岐阜市の間に位置し、古くは真清田神社(ますみだじんじゃ)の門前町として、尾張北西部の経済の中心として繁栄してきました。

一宮の地名は、平安時代に国司がその国の最初に参拝する神社を「一の宮」と言い、尾張国の「一の宮」が真清田神社であったことから、その門前町であるこの地域が「いちのみや」と呼ばれるようになりました。

真清田神社の祭神「天火明命(あめのほあかりのみこと)」の母神「萬幡豊秋津師比売神(よろずはたとよあきつしひめのみこと)」は、太古から織物の神様として知られ、そのご加護により当地域の織物業が発達したと言われえます。

「一宮市の歴史は織物の歴史」と言っても過言でないほど地域に根ざした産業で、様々な地域資源を生み出しました。

1

主な地域資源

◆尾州の毛織物

一宮市を中心した尾州地域は、麻・絹・綿と素材の移り変わりを経験しながら、明治以降に羊毛を使った織物生産の本格的な工業化の成功によって、急速な発展を遂げました。昭和初期には、各種素材の織物をはじめ紡績・撚糸・染色・整理から縫製まで一貫生産する総合繊維産業都市「毛織物王国・一宮」として全国に広く知られ、「織機をガチャンと動かせば万の金が儲かる」という意味で「ガチャマン」という言葉が生まれたほどでした。

現在は、新興国から安価な製品の流入やウール需要の減少により毛織物の生産はピーク時の3割まで減少しましたが、繊維工業出荷額は現在でも全国一を誇ります。

しかし、当地域は、分業化された各工程の各生産者に存在する高度な技術力と知識によって、多種多様な素材の複合化、さらには、ファッショントレンドや多様な消費者ニーズに対応した差別化・高付加価値な製品を生み出すことにより、国内のみならず海外からも支持されています。



昭和時代、繊維工場で働く人々



現在も稼動する織機

2

ふるさと名物

◆ 尾州の毛織物等繊維関連製品

当市を中心とする尾州繊維産地では、「尾州の毛織物」のほか、「尾州の毛糸」「尾州インテリア織物」「名古屋のアパレル」が地域産業資源に指定されていることから解るように、紡績、撚糸、製織、染色整理といった一連の業種が存在し、分業や提携で強固な生産体制を確立しています。その工程は、川上（毛製造）、川中（織物製造）、川下（アパレル製造）と川の流れにも例えられています。

地域では、蓄積された技術を基に、ウールのみならず、綿、化合繊や複合素材などによる織物や編物、また衣料用繊維以外にもインテリア織物、さらには産業用資材まで、それぞれに高度な技術力が活かされています。

そして地域では、各企業の強みを集約し差別化を図ったものづくりや、多様化するニーズへの的確な対応、海外など新たな市場開拓に向けた積極的な商品開発を行っています。



尾州の毛糸と織物



尾州の毛織物を使用した
高級紳士服

3 主な取り組み

◆ 公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター(FDC)の設置

繊維産業を代表とする尾張西部地域(尾州産地)の地場産業振興を図るため、愛知県・一宮市を始めとする地域24市町村や18業界団体(愛知県繊維振興協会)で構成されています。

情報の収集・提供、新商品開発、人材養成などの振興事業、とりわけファッション情報の収集・提供事業に力を注ぎ、長年毛織物で培った技術力と意匠力を駆使し、最新のトレンド情報を具現化することで、アパレルデザイナーの感性を触発する生地づくりを進めています。また、厳しい消費者ニーズに応えるため、アパレル・小売企業とも協力し、安心・安全、高機能・高品質な生地づくりにも努めています。

また、あいち産業科学技術総合センター尾張繊維技術センターとも隣接しており、事業も両機関が各々の機能を補完し有機的連携を持って活動しています。

◆ 展示会の開催

毎年、FDCでは春と秋の年2回、ファッションビジネスの集積地である東京・青山にて尾州産地展を開催し、新作生地などを展示しています。さらに2月にはジャパン・ヤーン・フェアを開催しています。日本で唯一の全国規模の「糸」の展示会であり、糸・織物業者にとって情報交換やビジネスマッチングの場となっています。平成24年からは併催で、総合展「THE尾州」を開催し、学生のアイデアを基に熟練技術者が具現化する翔工房作品展、日本唯一の生地の優秀性を競うジャパン・テキスタイル・コンテスト優秀作品展などのFDC関連事業や、業界団体などと協力し、尾州産地の特長を紹介しています。

市及び団体等の取り組み

◆一宮市J・クオリティ企業認証取得補助金制度

一宮市では、市内中小企業者が(一社)日本ファッション産業協議会が定める「安心・安全・コンプライアンス企業認証(J∞QUALITY)」の取得に要する経費の一部を補助しています。

補助金制度を創設することで、品質管理や付加価値向上を図り、官民一体で、繊維産業を盛り上げていく体制を築いています。



J ∞ QUALITY

T1600026 Approved by J∞Q Promotion office.

◆商標「尾州(BISHU)」の登録

FDCでは他商品との差別化を図り販路開拓及び拡大に繋がるよう、尾州産地を表現するロゴマークとして尾州産地の尾をモチーフとした「尾」マークを誕生させ、平成26年8月に商標登録を行いました。「尾」マークは尾州産地内で織り編みと整理加工の2工程を経た生地や、その生地を使用して作られた製品に付けることができます。

このマークを活用し「尾州」ブランドの強化を図ることにより、世界での売上げ向上を目指す取り組みを行っていきます。



BISHU.

商標「尾州(BISHU)」

市及び団体等の取り組み

◆ 尾州産地を考える会（繊維産業にかかると業種を超えた任意の業界団体）

「Tweed Run」というツイード素材の衣装を身にまとい、街中を自慢の自転車で走るイベントに参加しています。ロンドン発祥のイベントですが、日本では2012年に東京で始まり、翌年から名古屋でも開催されました。

2015年は、ツイード生地を得意とする尾州産地の中心である当市で開催され、全国から約200名が参加しました。市はこれを後援し、市長はじめ多くの市民が参加をしました。

市内の繊維工場見学や名所・旧跡をコースに取り入れ、業界主導で一宮市の産業観光の発掘に役割を果たしました。



Tweed Run Bisyu 2015の様子

市及び団体等の取り組み

◆一宮コスチュームタウン構想事業」の実施 【一宮商工会議所コスチュームタウン推進委員会】

愛知県が推進している「愛知ぽふかる聖地化計画」と連携して、一宮七夕まつりでのコスプレイヤーのステージイベントとパレードを実施しています。それ以外にも、秋のハロウィンの時期に尾州産地の生地を使用した「学生によるハロウィンファッションショー」や「ハロウィン衣装の製作」、製作した衣装を着た「ハロウィンパレード」を実施し、一宮が「コスプレイヤーの聖地」と言われるほど、人気が高くなっています。



七夕まつり期間中に開催されたコスプレパレード

◆一宮モーニングプロジェクト」の実施 【一宮モーニング協議会】

全国的に見ても稀な文化、「喫茶店でのモーニングサービス」をPRするため、一宮商工会議所と一宮市、市内の高校、食品関係者らで「一宮モーニング協議会」を平成21年度に設立し、地域をあげて「一宮モーニング」の全国発信に取り組んでいます。

協議会では「一宮モーニングプロジェクト」と銘打って、モーニングマップやキャラクター「ICHIMO(イチモ)」の作成や「一宮モーニングエンジェル」の結成、プロジェクト参加店のほか地元の学生による創作モーニングを楽しめる「一宮モーニング博覧会」を開催し、モーニングを観光資源とした街おこしを行っております。



一宮モーニングキャラクター
ICHIMO(イチモ)

◆ 一宮発祥のモーニングサービス

昭和30年代前半に全盛期を迎えた繊維業は、一宮市に喫茶店の「モーニングサービス」という独特の文化を生み出しました。

市内にある繊維業の各工場では、織機が絶え間なく稼動しており、稼動音と埃で、事務所での商談や打ち合わせが難しい状況がつづきました。そうした中、市内でも少なかったエアコン設備が整っていた喫茶店を応接間代わりに利用するようになりました。

そんな中、一日に朝から何度も通う常連となった繊維業を営む方々に、コーヒーを注文すると、一宮産のゆで卵とピーナッツ菓子を無料で提供するサービスを始めました。

これが起源となり、「モーニングサービス」の文化が市内ほとんどの喫茶店に根つき、現在ではモーニングサービスに独自のサービスを提供して差別化を図る喫茶店が増え、モーニングを目当てに一宮市を訪れる方もいるほどです。

モーニングサービスの文化は、この地域の人と人とのコミュニケーションツールとなり、この地域になくてはならない文化となっています。



コーヒーの他に
いろいろ付いてくる
「モーニングサービス」

◆ おりもの感謝祭一宮七夕まつりと真清田神社

一宮市民の守り神として崇敬されている真清田神社の祭神「天火明命(あめのほあかりのみこと)」の母神「萬幡豊秋津師比売命(よろずはたとよあきつしひめのみこと)」は、太古から織物の神様として知られ、真清田神社の摂社の服織神社の祭神にあたります。そのご加護により当地方の織物業の繁栄があるとされており、織物と縁の深い牽牛・織女にちなんだ、「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」は、毎年、7月の最終日曜日をフィナーレとする木曜日からの4日間、真清田神社から本町商店街を中心とし、全市を挙げて繰り広げられます。

昭和31年から始まり、去年で60回を数え、市民の夏の最大イベントとして根をおろし、その飾り付けの絢爛豪華さは、仙台・平塚の七夕まつりとならび日本の三大七夕まつりの一つと称賛されるほどで、開催期間中130万人もの人出で賑わいます。



七夕飾りで飾られた真清田神社



豪華絢爛な七夕飾り

参 考 ～織物がつなく地域資源～

中でも、「御衣奉献(おんぞほうけん)大行列」(写真左)は主要行事となっており、これまでの感謝と今後の繁栄を祈り、服織神社の祭神に当地の織物を奉献する時代衣装をまとった総勢200名の行列は圧巻の一言です。

平成25年度からは、長年培ってきた繊維に関するノウハウを地域資源と捉え、サブカルチャーの一つであるコスプレに着目し、一宮商工会議所が「一宮コスチュームタウン構想」と銘打って事業展開をしています。そこで、一宮七夕まつり期間中にはステージでの「コスチュームコンテスト」や中心商店街をジャンルごとのコスプレイヤーが練り歩く「コスプレパレード」(写真右)を開催し、コスプレと七夕まつりを融合させることにより、新たな観光資源の発掘や繊維産業の活性化を行っています。



御衣奉献(おんぞほうけん)大行列
(白装束の先頭は中野一宮市長)



市内中心商店街を練り歩くコスプレイヤー

一宮市長からのメッセージ



尾州ツイード生地
の上着で参加した
中野一宮市長

一宮市は木曽川の清流に育まれ、古くから繊維産業で栄えてきました。現在でも、繊維産業は市の基幹産業として重要な地位を占めています。

一昔前までは「安くて良い物」が国内外でも売れる時代でしたが、今では「付加価値」と「情報発信」がなくては売れない時代になりました。

一宮市では、官民にて「尾州」ブランドの更なる強化に努め、繊維産業とそれに繋がる地域資源をツールに、一宮市の魅力を内外に発信していければと思っております。

一宮市長 中野 正康